



いつも にこにこ 笑顔がいいねっ!!

相・福 いきいき 便り

2020

11月

No. 78

10月生まれの生き生きさん

【お名前】
三井 治子 さん

【生年月日】
昭和5年10月1日
90歳

【お住まい】
福岡

【一言】
●「生き生きクラブ」へ来て、
色々なお話を聞くのが楽し
みです。



※ちなみに、この方たちも昭和5（1930）
年生まれです

1月30日 - ジーン・ハックマン、俳優

5月31日 - クリント・イーストウッド、俳優・監督

8月25日 - ショーン・コネリー、俳優



(どれも'70年ごろのイラストです)

お誕生日おめでとうございます!

三井治子さんが生まれた昭和5年10月1日には

●国勢調査

この日の午前零時に第3回目となる国勢調査が行われました。

現在の居住地を基本とした調査ではなく、“調査の時点で何処にいるか”
が基本となる為、走行中の列車内でも行われ、浮浪者や水上生活者にも
調査がされました。結果、日本の総人口は9039万6043人と公表されました。

●超特急・燕

東海道線の東京～神戸間に、【超特急・燕】が運行され、東京～神戸を
今までよりも2時間20分も早い8時間55分で結ばれます。

同時に食堂車には初の女給も登場します。

この頃の乗用車の平均時速が28km、路面電車が21km、普通列車が32kmに対し、燕は平均67.5kmで、
最高時速は95kmというスピードで、運賃も東京～神戸を往復すると50円となり、当時の大卒初任給
と同じと言う、文字通り「超」の付く特急列車でした。



超特急「燕」

「燕」の食堂車内→

相・福 生き生きクラブ 会員募集



*相福生き生きクラブでは新規加入の会員を募集しております。

*自粛生活が続く社会環境にあっても積極的に地域の友人たちと交流したり、支えあうことで、
活発で生き生きとした毎日を送ることが出来れば、認知予防やうつ予防にもつながるはず。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

*ご質問、あるいは入会希望の方は、お気軽に民生委員、またはお近くの区会議員へお尋ね下さい。

令和2年度の活動記録(10月)



第9回(10月12日)◎屋外昼食会

参加者数
対象者：15名
協力員：15名

◎避難タワーの下は“広々快適空間”でしたね



- 今日は待ちに待った1年ぶりのお食事会でした。場所は福岡区内にある避難所、通称「Kタワー」でした。
- 広い会場で伸び伸びとグランドゴルフやコーラスをして楽しい1日でしたね。

広い場所で気持ち良い
グランドゴルフでした

広い！！

グランドゴルフ1位は
大石千鶴子さんでした

◎本日の昼食



大栄館の特注弁当

コーラス
で～す

御食事
で～す

参加者数
対象者：15名
協力員：16名

第10回(10月26日) ◎観賞用作品作り

☆苔玉(盆づくり)が出来ました

- 今回は「ガーデンセラピー」の効果も期待出来ると言われる「苔玉」を作品制作に選びました。
- 「これを眺めているだけで癒される」と言う人もいますそうです。配布資料を良く読んで大切に育てて下さいね。



西尾「先生」の作品

悪戦苦闘！

ご自身の作品を前にして記念写真



皆さんタイヘンよくできました



本日のおやつ



お汁粉

→制作風景



今月からお友達
紅林三保子さん
昭和11年生まれ
相良区在住です
皆さんよろしく！！





甘柿の代表種「治郎柿（次郎柿）」は、遠州森町原産です

●その由来は

「静岡県周智郡誌」によると、江戸末期の弘化年代（1844年～1847年頃）に森町村五軒丁の農家「松本治郎」という人が、太田川の川原で柿の幼木を見つけ、これを持ち帰り自宅に植えたのが始まりです。

明治2年、付近から出火した火災により、柿の木が焼失してしまいましたが、再び根元より新しい芽を出し、それが成長して以前にも増して甘味豊かな実を結ぶようになりました。

町の人をこれを「治郎柿」と呼んで繁殖させました。特徴は四角ばった形で、実は堅めです。今では甘柿の王様として各地に広まっています。

●皇室献上

明治41年、明治天皇が静岡市にお泊まりの折、向天方（むかいあまがた）の鈴木藤太郎が、自家の治郎柿を周智郡長を通じて献上し、知事は県下の名産として治郎柿をお菓子がわりにお出ししたところ、陛下はことのほか喜ばれました。以後、柿の献上は、ほぼ毎年行われています。

●原木は今でも

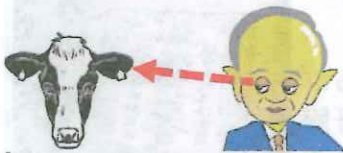
次郎柿の原木は、昭和19年、県の天然記念物に指定され、大切に保存されています。という事は原木の樹齢は170年以上でありますね。

また、森町で柿の栽培が盛んになったのは、原産地であることはもちろんですが、太田川水系の地下水が豊富で、砂まじりの土地が次郎柿の栽培に適していることもあげられます。

●今が旬の次郎柿です

肉質はきめ細やかで甘味豊潤（ほうじゅん）、加えて種も少なくとてもおいしい柿です。この秋是非一度はその味をお楽しみください。

治郎柿 たゞしづかなる 甘さかな 川越蒼雨



人を牛耳るには
牛の耳が必要！？

相福生き生きクラブ監事 西尾 仁男

歴代最長を誇った安倍総理の体調悪化による退陣で、菅・岸田・石破三氏の覇権争いの果、断トツの票を獲得し第99代菅内閣総理大臣が誕生、日本丸を船出させました。新内閣の閣僚や官僚達を牛耳って行くことになりませんが、長期政権の弊害で官僚らの忖度や森友・加計問題や桜を見る会を巡る疑惑等々、国民の不信を抱かせる様な政策が無くなる事を願うばかりですが・・・

ところで『牛耳る』とは『集団の中で自分が思うように動かし支配する事』ですが、何故『牛の耳』が出てくるのか？ 語源について調べてみました。

言葉の出典は、中国の春秋時代に孔子の編纂と言われる歴史書『春秋左氏伝』からで、牛耳るは正しくは『牛耳を執る』と言います。なぜ牛の耳を執ると言うのか、これは古代中国では諸侯が集まって同盟の約束を結ぶ時、牛の耳を切落とし、その血をすするという儀式を行いました。

血をすする順番は地位の高さや諸侯のリーダーが最初に行い、順次諸侯達が血をすすっていく。これが「牛耳」の儀式であり、「牛耳を執る」という言葉ができました。

「牛耳を執る」ことは諸侯たちの夢で、誰もがこの集まりで最初に牛耳を執りたがり、結果、時に争いや覇権争いに繋がって行きました。覇権争いは二千年以上の昔からあり、現在も変わらず続いています。人間の本性は変わっていないという事ですネ。

日本語の「牛耳る」は、身勝手という感もあり、必ずしも良い意味とは言えませんが中国ではマイナスの意味はなく、トップに立つという意味で、むしろ誉め言葉になります。同じ言葉を起源としても微妙な違いがあることは、トップを目指したがる中国文化と、協調性を重んじる日本文化の違いが見えてきますネ。

菅総理には閣僚・官僚を牛耳るのではなく、是非上手く『統率』して頂きたいですネ！



相良でんぐら史話 第二十七回

大澤寺十五代住職 今井一光

《 蕉園渉筆 番外 》

瘞馬骨碑 (えいばこつひ)



へいサラバサラ

先日川越ペンクラブの「武蔵野ペン」なる文芸誌の紹介をいただきました。その誌中 田中哲郎氏の短い記述には川越時代の小島蕉園の足跡の一つが見えました。

小島蕉園の活動といえ第一に甲州そして江戸とこちら遠州相良が思い浮かびますが母思いの蕉園は江戸の火事頻発を嫌った母の為に短い時間ながら川越に転じています (文政2年(1819年)のこと)。

その書籍によれば蕉園が碑銘を記したという「瘞馬骨碑」というものがあるということ。「瘞」は「埋める」ですから馬の骨を埋めるということですが、その内容はその馬にまつわる奇談。

転記すれば

「(川越の)観音寺近くに日頃侠気に富むと評判の増田半蔵なる者がいた。ある晩夢に馬が現れ『我は元は貴人の乗馬として大切に飼養されていたが、今や捨てられ屍は無残にも野晒のままである。願わくは我が屍を埋葬せよ、その報いに我が脊梁(せきりょう:背骨)にある珍玉を汝に遣わそう』と告げた。付近を探索すると正しく馬屍と鞠ほどの玉があった。半蔵は観音寺に屍を埋め、その上に里人の合力で馬頭観音を祀り、碑銘は同郷の士、**小島蕉園が撰文にあたった**・・・」とあります。

小島蕉園はそういった奇談は結構好みようで「蕉園渉筆」の中にもその手の不可思議な話が散りばめられていましたね。

この中の「馬の脊梁にある珍玉」というものには実はしっかり名前があって「へいさらばさら」。元はポルトガル語ということで牛馬の腸の結石がその正体だそうです。日本の言葉では「鮓苔」(さとう)。初めて知りました。(今井)

へいサラバサラ (鮓苔・馬糞石)

江戸時代の百科事典『和漢三才図会』には鮓苔(へいさらばさら、へいさらばさる)という玉のことが記載されています。同書によれば、「これは動物の肝臓や胆嚢に生じる白い玉で、鶏卵ほどの大きさのものから、栗のイガやハシバミくらいの小さいものまであり、石や骨にも似ているがそれとは別物で胆石などと同様の生成物である。蒙古人はこれを使って雨乞いをした」とあります。

著者・寺島良安はこれを、オランダで痘疹(痘瘡の発疹)や解毒剤に用いられた平佐羅婆佐留(へいさらばさる)と同じものとしている。近代では、「鮓苔」、「さとう」と読み、動物の胆石や腸内の結石と解釈されています。

また、地方によっては「テンサラバサラ」「ケサランパサラン」「へいサラバサラ」の語を同一視あるいは混同して扱ったり、「白い毛玉である」「落雷の後に落ちている」「白い粉を食べて増える」「良い事がある/金持ちになる」「1年に一度しか見てはいけない」等の言い伝えが残るとの報告も有るそうです。

その他「へいサラバサラ」は梵語ではないか?『不動経』のナマクサランダバサダとか、真言と関係があるのでは・・・等々の所説があるようです。



和漢三才図会

これからの いきいき予定

- 11月30日: 懐かしの歌を唄おう
- 12月14日: お正月の作品作り
- 12月21日: クリスマス会



(尚、今後の社会状況によっては上記予定の変更もあります)

皆様のご意見や思い出話をお待ちしております

相・福 いきいきだより

笑顔がいいねっ!!

2020年11月9日号

(通算第78号)

発行

相良・福岡 生き生きクラブ